



全国学力・学習状況調査結果について

学校長 藤井 泰則

深秋の候。保護者の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動にお力添えをいただき誠にありがとうございます。

中学校時代は、「人生の基盤づくり」の大切な時期と考え、生徒一人ひとりが将来を見つめ、志ある生き方をめざして欲しいと願っています。旭丘中学校区では、生徒の『社会的自立』をめざす小中一貫教育に力を入れて取り組み、9年間を見通した教育活動を進めています。

さて、本年度4月に中学9年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査について、本校生徒の検証結果のまとめができましたのでご報告いたします。すでに9年生には個々の結果を配付していますが、学校全体の傾向をお知らせし、今後の「家庭教育」に生かしていただくようお願いいたします。



【本校の調査結果について】

1 教科に関する調査結果（概要）

- ◇ 今年度は、国語と数学の2教科による全国一斉調査の実施となりました。本校では、国語・数学ともに基礎・基本の力は定着しており、県や全国と比較しても「極めて良好」な項目が多い状況です。
- ◇ 今年度においても基礎的・基本的な知識・技能を活用する力も、県や全国と比較して十分に「活用できている」状況です。さらに、「無回答率」が低く、学習に対して粘り強く取り組む姿勢が伺えます。

国語科

★優れている項目

- 漢字を「読む」「書く」に関する設問の正答率が高いです。文脈に即して漢字を正しく書くことができています。
- 会話文を読み、相手の意図をふまえた発言を選択肢から選ぶ問題がよくできていました。学校生活の様々な場面で他者とのコミュニケーションがしっかり取れていることが確認できました。
- 文章の構成や表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題は、国、県の正答率を大きく上回っていました。普段から「生活の記録」や道徳、総合的な学習の時間で文章を書く習慣がよい影響を与えていると思われます。

- 生徒会専門部活動や教科班活動など、学校生活のあらゆる場面で、自分の考えを他の人にわかりやすく伝える機会が与えられている。そこで自然に表現力や語彙力を高めるような経験を重ねていることが、よい結果につながっていると思われます。

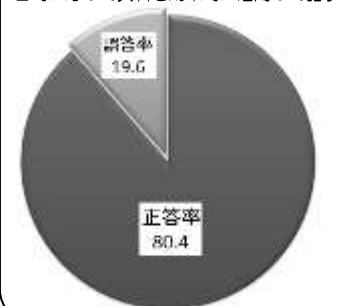
★課題となる項目

- 自分が疑問に思ったことを調べるための書籍を探す設問の正答率が低調でした。スマホやパソコン等のネットツールで調べる機会が多い反面、図書館を利用したり、書籍で課題解決を図る方法を身につける必要があります。

文脈に即して漢字を正しく書く



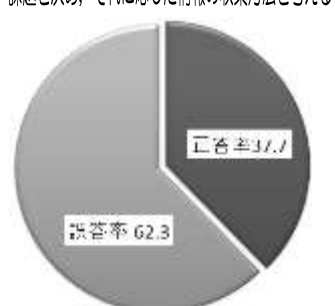
目的に応じて資料を効果的に活用して話す



文章の中心部分と付加部分とを読み分け、要旨を捉える



課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える



数学科

★優れている項目

- どの領域も基本的な内容は身につけていました。特に数学的な技能の正答率は75.8%と高かったです。本校の生徒の授業態度は落ち着いており、基礎基本が定着できています。また、計算問題は、おの検定を活用し、繰り返し学習しているため正答率が高いと考えられます。
- 正・負の計算や文字式、方程式の計算はよくできていました。少数授業の成果が表れていると考えられます。また、関数の意味やグラフの読み取りについても意味をよく理解しています。

★課題となる項目

- 2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する問題の正答率が4割に届きませんでした。問題文をよく読むことについては、生徒自身に普段から意識づけをさせていますが、教師も不必要に教師が問題文をかみ砕いて説明せず、じっくり時間をかけて読み取る経験を積ませようと思います。
- 確率の問題は、8年生の3学期の期末テスト後に学習するため、なかなか繰り返し学習する機会が乏しいです。そのため、全国平均を若干下回る結果になりました。

正の数と負の数の加法の計算ができる



空間図形の読み取り



反比例グラフの座標から式を求める



確率の基本的な問題



2 生活習慣や学習教科に関する調査結果（概要）

★概ね良好な項目

- 同じ時間の起床、朝食等の生活習慣については「十分良好」な状況です。また、「学校の規則を守っている」「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」「理由の如何にかかわらずいじめはよくない」の質問に「はい」と答えた生徒の割合は高く、本校生徒の規範意識の高さが伺えます。
- 本校のほとんどの生徒は、「仲間を大切にできる意識」や仲間と協力してものごと到最后まで取り組み「うれしさ」や「達成感」「自己有用感」を感じながら充実した生活を過ごせています。

★やや不十分な項目

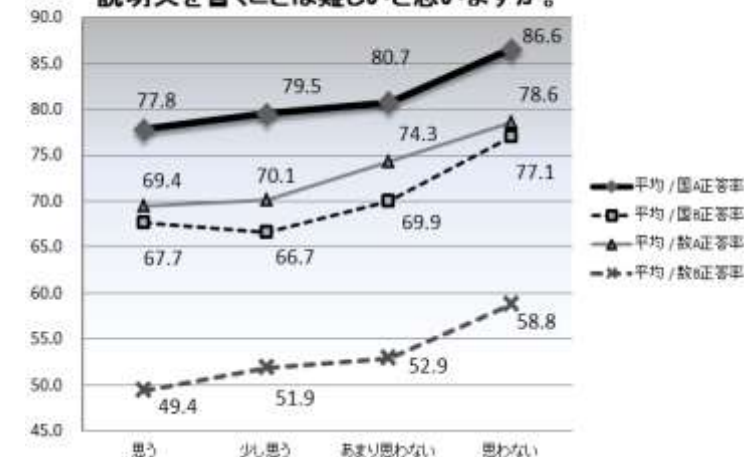
- 家庭でのスマートフォンや携帯の使い方に対する意識は、「旭丘スマホ宣言」等を通じて年々高まっています。しかし、家庭での時間の使い方においては、1時間以上テレビを視聴したり、ゲームをする生徒の割合が多く、家庭学習を計画的に取り組み、充実したものにすることも家庭での時間の使い方が今後の課題であると思われます。

3 今後の指導について

◇学校の取り組みと今後の対策◇

- ◎ 国語では、漢字や語句の「読み・書き」などの基礎的な学力の充実を、日々の漢字練習や「おの漢字検定」への取り組みを通して図ります。また、普段から読解力や表現力を高めるため、総合的な学習の時間や道徳など、国語以外の授業で「文字を書く」機会を設け、文章表現力を育みます。
- ◎ 数学では、今後も少数数学学習を活用し、個別学習の充実を図りながら、基礎基本の定着や答えだけでなく理由などを説明できる教材開発や機会をつくり、論理的な思考力や応用力が身につく授業を目指します。
- ◎ ICT機器（コンピュータ、プロジェクター等）を活用した「魅力ある授業」「分かる授業」づくりに取り組み、意欲的に授業に臨もうとする態度を育みます。

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。



400字原稿用紙に文章を書くことを苦手にしていない生徒ほど、国語A、B数学A、Bの正答率が上昇するというクロス集計です。